

「備えていたことしか、役には立たなかった」「備えていただけでは、十分ではなかった」。これは、東日本大震災の実体験に基づき国が作成した「災害初期指揮心得」の一節です。近年、日本各地で地震や台風などの自然災害が頻発しています。被災地の状況についてテレビを見ると、道路や建物の損壊、死傷者の数、避難所での生活などが連日報道される一方で、救われた命に関するエピソードも伝えられています。ここでは、そうした中から二つの事例を紹介したいと思います。

一つ目は、平成23年に発生した東日本大震災です。釜石市の小中学生約570人が、津波発生時に防災教育で学んだ「率先避難者たれ」を実践し、迅速に高台へ避難して全員が助かりました。二つ目は、平成26年に発生した

市長コラム 夢かなうまち おびひろ 救われた命、失われた命 帯広市長 米沢 則寿

長野県神城断層地震です。白馬村を中心に甚大な被害が発生し、一時、26人が倒壊した家屋の下敷きになりましたが、近隣住民の協力によって全員が救助されました。当時、マスコミはこれらの事例を「釜石の奇跡」「白馬の奇跡」と報じました。しかし、これらは決して奇跡ではなく、日頃からの備えに加え、隣近所の住民同士の助け合いの仕組みなどが、災害発生直後の適切な行動につながり、命を救ったのです。災害への対応力を高めるには、「自助」「共助」「公助」の三つが機能することが重要だと言われています。市では、公助の取り組みとして、これまでの災害などを踏まえて、備蓄倉庫の整備を行ったほか、避難所の発電機の整備など、いわば事前の備えを進めています。しかし、生死を分ける被災直後の避難や救助の約8割は、自助や共助によるのが現実です。そして、実際の災害では予期せぬ事態が起き、家族も一緒にいるとは限りません。いざというときにどうやって自分や大切な人の命を守るのか、平時の備えだけでなく、災害初期の対応が重要になってきます。食料や水などの物理的な備えとともに、日頃の近所付き合いにより顔の見える関係がつけられることで、お互いの安否確認や連れ立っての避難など、災害時の切迫した状況に対応できるのではないのでしょうか。

第78回 おびひろ平原まつり

問い合わせ

帯広のまつり推進委員会 (西2南12、エスタ東館2階、☎22・8600) 観光交流課 (市庁舎7階、☎65・4169)

十勝管内最大級の夏まつり。活気あふれるさまざまなイベントが開催されます。詳細は、まつり公式ホームページを確認してください。



開催期間 8月14日(木)、15日(金)

開催場所 西2条南8丁目～11丁目、広小路、夢の北広場

主なスケジュール

14日(木)

開会式 西2条南8・9丁目交差点、12時～12時45分

夢降夜 西2条南8～9丁目、19時～20時

その他各街区イベント 11時～21時



15日(金)

平原・太鼓まつり 西2条南8～9丁目、15時20分～17時10分、雨天時は13時30分～16時に帯広市民文化ホールにて開催

おびひろ盆おどり 西2条南8～10丁目、19時～20時45分(※雨天中止)

その他各街区イベント 11時～21時

夢降夜



五穀豊穡と先人への感謝を込めて、みこしを担ぎ練り歩きます。

平原・太鼓まつり



全道の太鼓団体が集まり、大地を揺るがす太鼓の音を響かせます。

おびひろ盆おどり



チームごとに思い思いの衣装や振り付けで踊りを披露します。

大道芸



国内外で活躍する豪華パフォーマーが集結し、各会場を盛り上げます。

広報広聴課職員が行く! オビヒロカメラレポ OBIHIRO CAMERA REPORT

花コミュニケーションとかち2025

6月11日から15日の5日間、見慣れた街並みの一角が、色鮮やかな草花で彩られました。個人や団体から出品された作品は個性豊かで、赤や黄色など原色で構成された明るい作品、落ち着いた色合いが上品な作品など、作品を通して製作者の感性や想いが伝わってくるようでした。青空の下、会場を訪れた来場者たちは、お気に入りの作品に投票したり、記念撮影をしたりと、思い思いに癒しの空間を楽しんでいました。

(6月13日、とかちプラザ南公園)



十勝ひとりぼっち農園複製原画展

十勝で野菜を育て、日本一のカレーを作るため、東京から移住した横山裕二氏作の漫画「十勝ひとりぼっち農園」の複製原画展を図書館2階地域資料展示コーナーで開催しています。



これまでの名シーンやファンにとってうれしいエピソードが紹介されており、来館者が足を止めていました。また、展示スペースの隣には漫画が置かれており、館内で閲覧できます。

複製原画展は8月28日(木)まで開催していますので、この機会にぜひ作品に触れてみてはいかがでしょうか?

(6月11日、図書館)

